

2021 年度 小委員会活動成果報告

(2022 年 1 月 25 日作成)

小委員会名	持続可能な観光地形成小委員会	主 査 名：岡村祐 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：野澤康
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	前身の「地域観光プランニング小委員会」(2017-18 年度)では、持続可能で質の高い観光地域の計画手法(＝地域観光プランニング)として、8つのプロセスと 30 のアクションを提起した。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、観光をめぐる状況が一変したことから、それによる観光への影響と計画論的示唆を含めた、書籍「サステイナブル・デスティネーション(仮)」(学芸出版社)を 2021 年度中に入稿予定である。これは、資源の把握、推進組織体制の構築、計画策定から事業の実施までを網羅した総合的なものである。 本小委員会設置時は、以下の目的を掲げた。 本小委員会では、観光地域における現代的課題としての「オーバーツーリズム：過度な観光客の流入が住環境や都市インフラなどの都市生活を脅かしている現象」に焦点を当て、地域観光プランニングの理念や手法を基軸に、いかに計画的介入が可能なのか検討を行う(①)。また、その際に被コントロール対象者となる観光産業や観光者の存在を重視する必要がある(②)。くわえて、本小委員会では、WG を設置し、上記の「地域観光プランニング」をひろく普及させ、発展的に議論するために、複数のアウトリーチプログラムを実施する(③)。 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、観光をめぐる状況が一変したことから、本小委員会で取り組む本質的問いは維持しつつ、具体的内容については一部修正しながら小委員会活動を継続していく。 初年度(2019 年度)： ・地域観光プランニングカレッジ(9 月)(三重県志摩市)③ ・小委員会メンバーによる合同視察(コロナ禍のため未実施)① ・オーバーツーリズムに関する事例調査・研究テーマの探索(通年)① ・大会時のオーガナイズドセッション①②③ 2 年度(2020 年度)： ・地域観光プランニングカレッジ(9 月)(コロナ禍のため未実施)③ ・小委員会メンバーによる合同視察(コロナ禍のため未実施)① ・オーバーツーリズムに関する事例調査(通年)① ・観光事業者との連続公開研究会(7 月)② ・大会時のオーガナイズドセッション①②③ 3 年度(2021 年度)： ・大会時の研究集会(9 月)①②③ →PD 主催 ・小委員会メンバーによる合同視察(3 月)(福山市鞆の浦予定)① ・地域観光プランニングカレッジ(9 月)(コロナ禍のため未実施)③ ・観光事業者との連続公開研究会(2 月実施予定)② ・若手人材の発掘と育成(3 月)① ・大会時のオーガナイズドセッション①②③ 4 年度(2022 年度)： ・大会時のオーガナイズドセッション(8 月)①②③ ・小委員会メンバーによる合同視察(3 月)① ・観光事業者との連続公開研究会(通年)② ・図書の刊行①	
委員構成	委員公募の有無：あり	

(委員名(所属))	主査：岡村祐（都立大） 幹事：川原晋（都立大）、西川亮（立教大） 委員：阿部大輔（龍谷大）、伊藤弘（筑波大）、姫野由香（大分大）、佐野浩祥（東洋大）、永瀬節治（和歌山大）、山崎嵩拓（東大）、永野聡（立命館大）、森なおみ（株インブリージョン）、片岸将広（日本海コンサルタント）、渡邊高章（Urban Geeks） ※2020 年度より、観光まちづくりの現場で活躍される委員 3 名（森氏・片岸氏・渡邊氏）に参画いただいている。	
設置 WG (WG 名：目的)	■「地域観光プランニング」アウトリーチ WG 上記の刊行図書を素材とした社会人向け講座の開催（5-8 月）、地域観光プランニングカレッジ（9 月）の企画・運営を行う。	
2021 年度予算	220,000 円	ホームページ公開の有無：あり 委員会 HP アドレス： https://aij-sustainable-destination.com/

項 目	自己評価		
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）		
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)			
講習会	1. 観光地域づくり最前線 ～地域観光プランニング概論～（2022 年 2 月開催）		
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画			
大会研究集会	1. ポストコロナに向けての観光地域の再生戦略	参加者数	70 名
対外的意見表明・パブリックコメント等			
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	2020 年度は新型コロナウイルス感染症流行に伴い、観光を巡る状況が一変した。当初本小委員会で予定していた活動や研究内容を再考する必要が生じた。しかし、本質的な問題意識は変わらず、大会でのオーガナイズドセッションや研究集会の主催、そして各地域の情報収集やヒアリングを実施するなど、小委員会として果たすべき取り組みを遂行してきた。		
委員会活動の問題点・課題	新型コロナ流行に伴い、活動がオンラインでの会議に限定され、現地視察等が実施できないこと		